

【イチゴ栽培におけるアグリ・トップ®クロマル使用のポイント】

アグリ・トップ®クロマルはイチゴの着果や収量を保証するものではありません。
アグリ・トップ®クロマルにてイチゴ交配を実施した後、例年やミツバチとの比較における収量減少に関しては対応いたしかねます。

◆アグリ・トップ®クロマルを導入する前に

①開花状況を確認しましょう

できるだけ多く開花している時期に導入することをお勧めします。開花が少ない時期の導入は、学習飛行に時間がかかる、花を壊す（過剰訪花*）などの原因となります。

※過剰訪花：働きバチが訪花しすぎて、柱頭などを傷つけてしまう現象。

②アグリ・トップ®クロマルが施設外に逃亡できないことを再確認しましょう

クロマルハナバチは施設内で餌資源を見つけることが苦手です。施設内の花を認識できずに、より遠くへ飛来しようと天窓付近などに集合し、隙間などから野外に逃亡する場合があります。施設開口部に展張したハチ逃亡防止用ネット（4mm 目以下）に隙間が生じていないことを再確認してください。

③使用農薬を確認しましょう

これまでに使用した農薬を調べ、アグリ・トップ®クロマルへの影響残日数をご確認ください。商品同封の『上手な使い方』の“マルハナバチに対する農薬の残効期間もしくは影響の程度について”をご参照ください。

硫黄くん煙について：

マルハナバチへの影響はほとんどないと思われていますが、学習飛行の妨げとなる可能性があります。導入から2～3日程度（ハチが安定して訪花するまで）は利用を控えてください。

◆アグリ・トップ®クロマル導入の目安

- ・10a / 1箱を目安にし、かつ1施設1箱で導入してください。
- ・同じ巣箱を数か所の施設でローテーション飼養することは困難です。巣の寿命が極端に短くなるなどの弊害が生じます。

◆アグリ・トップ®クロマル使用にあたって

- ・アグリ・トップ®クロマルの巣（コロニー）の寿命は1～1.5か月（目安）です。
- ・花粉を集める働きバチは少数精鋭です。
- ・施設内の最低温度が10℃以下（目安）になる場合や、曇天（光線不足）時は活動しない可能性が高くなります。

◆過剰訪花時の対処

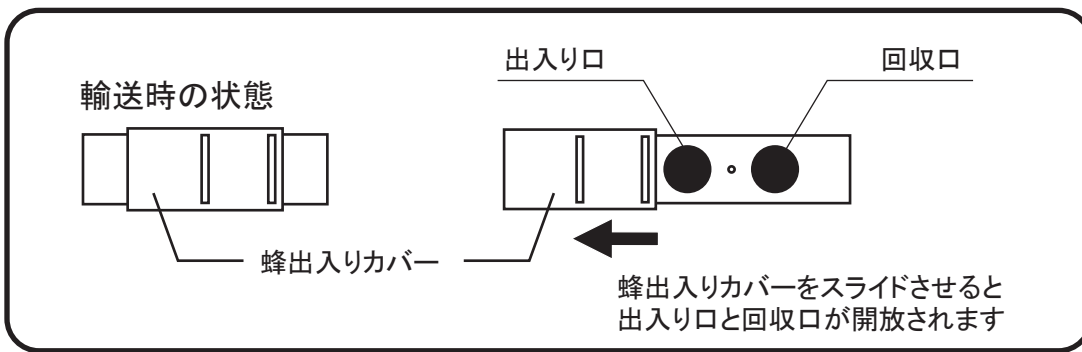
開花数が少ない時期や5a以下の小さな施設で飼養する場合は、ハチの過剰訪花にご注意ください。

以下事項が見られる場合はハチの出巢を制限してください（制限方法は裏面を参照ください）。

- ・開花直前のつぼみに訪花している（つぼみに頭を入れる、こじ開けるなど）。
- ・花弁に褐色の傷、斑点が多く見られる（ハチがつぼみの段階で訪花していた、もしくはつぼみをこじ開けた証拠です）。
- ・柱頭部が変色している。

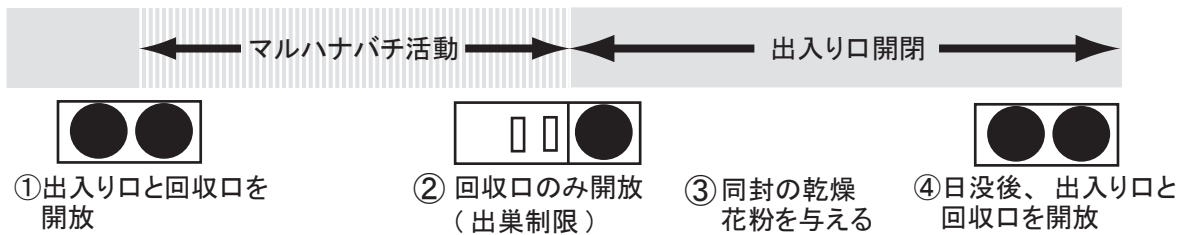
ハチ出巢制限時は、付属の蜂用花粉を与えてください（裏面を参照ください）。

蜂出入りシステム

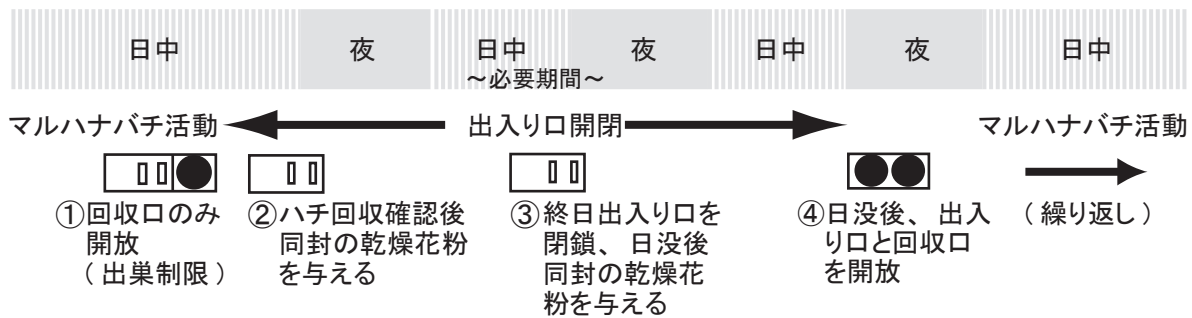


マルハナバチ出巢制限の例

(例 - 1) 働く時間を制限する



(例 - 2) 働く日を制限する

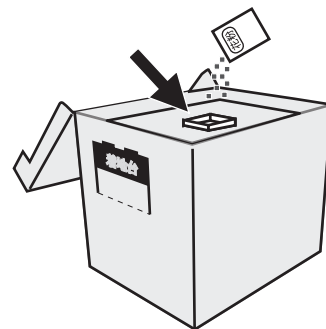


働く時間や日を制限する時は、
蜂用花粉 1 包分 (約 2g) を毎日夕方与えてください。

蜂用花粉の与え方

■ 巣箱の格子部分から与える場合：

蜂用花粉 1 包 (約 2g) を巣箱内 (綿の上) に落とします。



■ 蜂出入り口側 (回収口) から与える場合：

同封のスプーンストローで蜂用花粉をすくい、回収口 (向かって右側) に差し込んで、1 包分 (約 2g) を与えます。

※回収口奥には「逆止弁」があるので注意してください。

